

副會長	梅津治之吉
主 事	久保 鐵 吉
副主事	寺 山 善 吉
會 計	宮 本 爲 之 吉
書 記	小 川 岩 吉
類 關	波多江 登一郎
評 議員	時 林 清 之 吉
	神 武 芳 太 郎
	宮 下 嘉 市 外 國 十 五 名
	林 五 吉
一八、役員代表挨拶	
會長に選ばれた上は後編年ら諸君の御指導により努力す	
一九、副會の辭	會長 寺 山 善 吉
二〇、副會後直ちに演說會を開催す。	

演說會の狀況（その要旨）

協調會聯合會 岩 下 貴 志

外國思想が入つて來てから家族制度は廢れ、日本傳統の精神を破壞した事は純日本精神にかへれと云ふのである、現在失業者は甚だ多い、然し吾々農民の生活は失業者よりも尙苦しい、吾等内國は自力更生を叫ぶが之を農民は以て農村は救はれぬ亦一方に農村救済に關係と關し巨額の金を支出したが實際は資本家、地主の懐に落ちるので吾々農民の得る努力費たるや非常に少額を以てある政府は農村救済の美名の下に實は吾々を欺騙、中止

浮利聯合會 菊 竹 東 造

百姓の貧乏は何處から來たか、百姓は大昔からやはり百姓であつた、明治になつて思ふに出來たが吾々百姓は何百年働いても思ふ給はもらへぬ、これも貧乏の一原因である、それに百姓は着物にせよ油にせよ買製のものを使用して來たし物々交換の爲金は不